

カトレアの育て方



学名：*Cattleya* spp.
生活形態：着生
原産地：中南米の熱帯～亜熱帯
草丈：20～80cm
開花期：冬～春、夏、秋
越冬温度：8～12



特徴：花の大きさ、花色の多彩さから、「洋ランの女王」といわれます。コチョウランと並んで最も親しまれています。最近では草丈が20cm以下にまとまるミニカトレアも人気で、贈り物としても広く愛されています。カトレア属は30種程度の野生種から構成され、一本のバルブに葉が1枚つくタイプと、2枚つくタイプとに分かれます。

また、近縁のレリア属やブラッサボラ属、ソフロニティス属などとの交雑によっていくつかの人工属が作り出されており、一般にカトレアと呼ぶときにはこれらも含まれます。RHS(英国王立園芸協会)のリスト(サンダーズ・リスト)には25000以上の交配種が登録されています。

栽培のポイント：開花期により、冬～春咲き、夏咲き、秋咲きに分けることができます。いずれの場合も良い花を咲かせるためにはよいバルブを育てることが必要です。一本のバルブの生育期間は春から秋の間に限られるので、この間に十分な水、肥料、光を与えることが必要です。しかし、冬～春咲き種は、花芽ができたあと、一番寒い時期に花茎を伸ばさなくてはならず、そのためには温室がないとなかなか思うように行きません。その点、秋咲きなら、温室がなくても比較的簡単に開花させられます。秋咲き種は春暖かくなるにつれて、新芽を伸ばし始めます。そして、夏至を過ぎて日照時間が短くなってくると花芽ができて始めます。その後、新芽を伸ばしながら葉が展開すると、葉のつけ根からシース(蕾を保護する葉)が出てきて、9月から10月ごろ開花します。このプロセス中、遮光は必要ですが、ほぼ戸外で管理できます。このように気温がまだ15以上あるうちに花茎を伸ばすので、寒さで花芽を傷める心配がありません。開花し終わると休眠しているかのように動かなくなり、植え込み材料の表面が乾いたら、わずかに水やりするだけで、簡単に冬越しできます。ただし、太陽光は必要で、窓辺に置いておくのが良いでしょう。

秋咲き品種：多くの秋咲きのもとになったのが、カトレア・ラビアータ、その他 *Bc.*マルセラコス ピンクマーベル、*Blc.*カーベラビューティー ソング・オブ・キャナリー、*Lc.*タイナンシティ ジェネラル など
[属名の略号：*Bc.*(*Brassocattleya*)、*Blc.*(*Brassolaeliocattleya*)、*Lc.*(*Laeliocattleya*)]

置き場所：春暖かくなったら、鉢を日当たりと風通しのよい戸外に移します。葉焼けを防ぐため、5月中・下旬からは直射日光を避けるため50～60%程度の遮光をします。9月下旬から十分日光に当て、10月下旬には室内の明るい場所に取り込みます。

水やり：生育期には、植え込み材料が乾いたらしっかり水を与えます。秋、バルブが完成するころから徐々に水やりを控え、乾かし気味にします。冬は、植え込み材料が乾くのを確認して暖かい日の午前中に与え、寒いときにはさらに3～5日待って軽く水やりをします。暖房して空気が乾くときには1日1回葉に水を霧吹きをすると良いです。低温時、膨らんだ蕾に水をかけると傷みやすいので、蕾に葉水をかけない注意します。

肥料：新芽が伸びだすころに置き肥を施し、あわせて秋までの間、月に2～3回液体肥料を施します。

植え替えと株分け：傷んだ植え込み材料を新しくしたり、新芽が伸びる場所を作ったりするためにも、2～3年に一回、植え替えはを行いたいものです。冬～春咲き種は4月から5月、夏咲き種は9月、秋咲き種は3月から4月に行います。支柱をはずし、根とそのまわりの土をそっと離し、株を中央に寄せます。株を取り出したら、中心から古い水ゴケを取り除いて、外側から上に向かって、腐った根を取り除き、最低でも3つのバルブ(茎が肥大した

部分)を残して切り離します(新芽を傷めないように注意)。このとき同時に株分けもできます。バルブをできるだけ鉢の周りにまとめて据えます。新しい芽とバルブの間の長さ約2倍のスペースをとります。水ゴケを根の下から繊維を縦にして新芽のすぐ下までていねいに包み込みます。根の下から鉢の中に押し込み、支柱を立てて完了です。

病虫害の防除：新芽や新根、開花前の蕾がナメクジの食害にあわないよう、殺ナメクジ剤などで駆除する。バルブを保護する皮を取り除き、カイガラムシを予防します。用具や、株分けなどで切断したときの切り口の殺菌を忘れないようにしましょう。

◎カトレア (C.Blc.Slc.Bc.Lc.L.Pot.Epc.)

	春			夏			秋			冬		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
水やり	乾いてからたっぷり			夏期は夕方毎日			乾いてからたっぷり					
日照/遮光	20~30%遮光			40~50%遮光						20~30%遮光		
肥料	● 2000-3000倍の液肥			● 少なめの置肥								
管理場所	植え替え 室内			戸外						室内		
コンポスト	(スヤキ鉢+水苔)(プラ鉢+軽石)											

※ミニカトレアは3~5℃の低温でOK。スタンダードは最低10℃、12~15℃が最適。

※5~10月は屋外に出して雨や夜つゆに当ててやる。

※ファン等で空気を動かす。

※カイガラムシに注意する。

※植え替えは3~5月に小さめの鉢で植える。